

総括編

さいたま市のあらし

未来に向かって躍進するまち

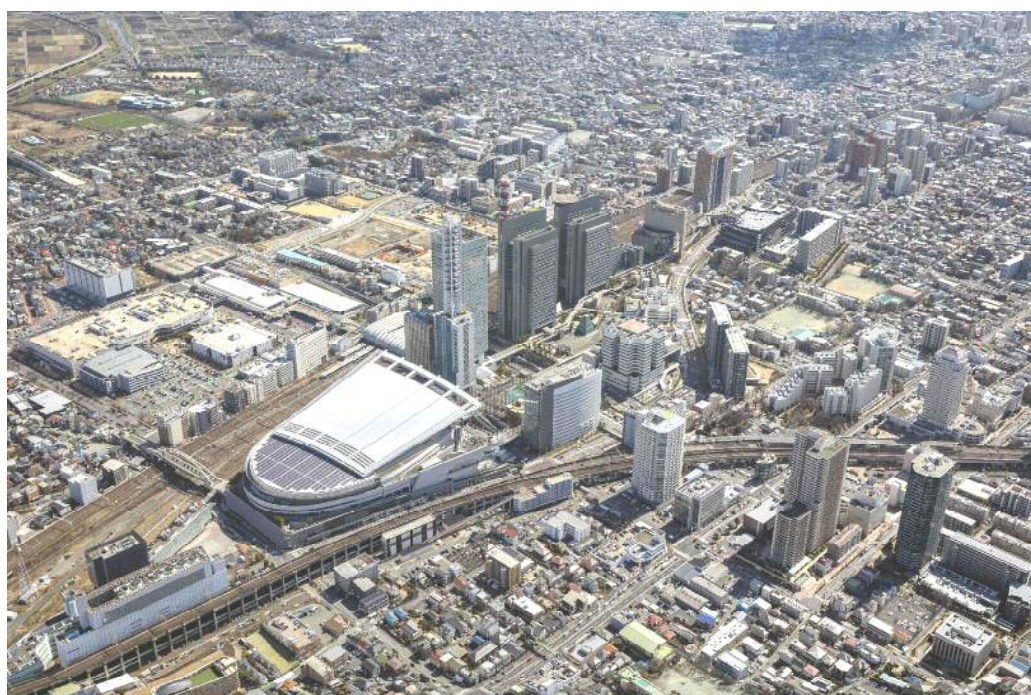
さいたま市は、埼玉県の南東部に位置し、都心から20～30km圏内にある県庁所在地です。

平成13年5月1日に旧浦和・大宮・与野の3市合併により誕生し、平成15年4月1日には全国で13番目の政令指定都市へと移行しました。その後、平成17年4月1日に旧岩槻市との合併を経て、10行政区になりました。現在は、131万人（令和2年4月1日現在）を超える人口を擁し、発展・成長し続ける大都市となりました。

また、古くは中山道の宿場町として発達してきた歴史を持ち、明治以降は埼玉県の中心として行政、経済、文化を常にリードしてきました。平成12年には、市の中央部に位置する旧国鉄操車場跡地に、関東甲信越地方を所轄する国の機関及びさいたまスーパーアリーナを始めとする、より広域的な行政機能や高次の業務・商業・文化機能を有する施設が集積した新しい街「さいたま新都心」が誕生しました。現在は、関東圏を牽引する中核都市として飛躍しています。

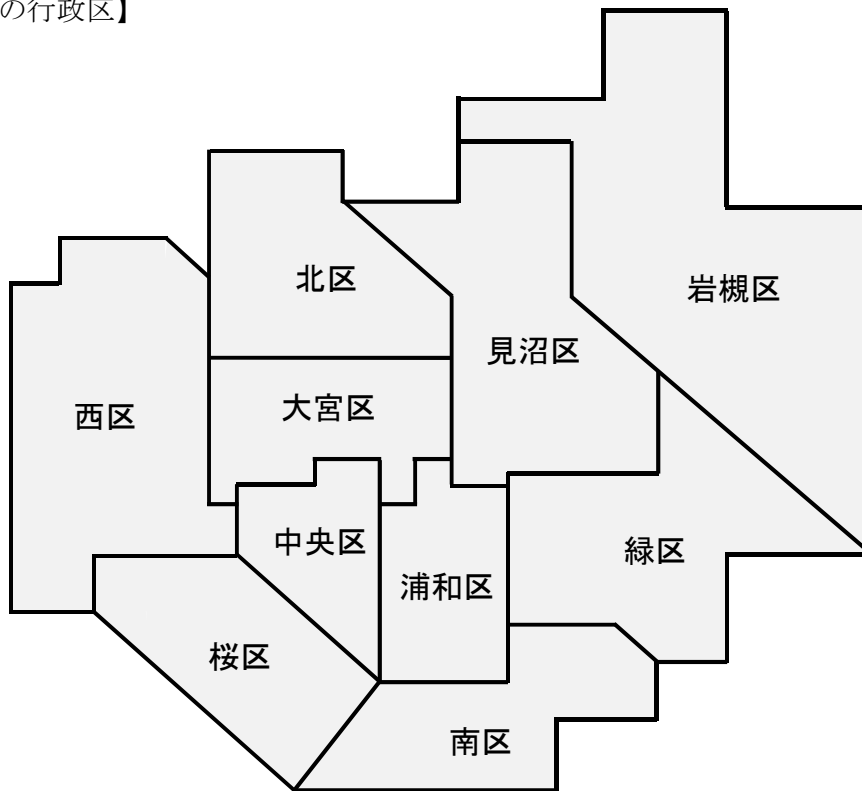
2021年には、さいたまスーパーアリーナと埼玉スタジアム2002において、「東京2020大会」が開催される予定となっています。

さらに本市では、「上質な生活都市」、「東日本の中枢都市」を目指し、平成27年度から「さいたま市が住みやすい」と感じていただける市民の割合を2020年までに90%以上にする取組として、「さいたま市CS90運動」の推進に全庁を挙げて取り組んでいます。



さいたま新都心

【さいたま市の行政区】



【さいたま市の人口】

(令和2年4月1日現在)

人口総数	世帯総数	面積	人口密度
1,318,363 人	606,482 世帯	217.43 km ²	6,063.4 人/km ²

区名	人口(人)	世帯数(世帯)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
西区	92,355	40,981	29.12	3,171.5
北区	148,257	68,648	16.86	8,793.4
大宮区	118,563	57,733	12.80	9,262.7
見沼区	163,606	74,200	30.69	5,330.9
中央区	102,163	48,405	8.39	12,176.8
桜区	95,920	46,051	18.64	5,145.9
浦和区	165,167	75,446	11.51	14,349.9
南区	191,781	89,055	13.82	13,877.1
緑区	127,896	54,793	26.44	4,837.2
岩槻区	112,655	51,170	49.17	2,291.1

消防局運営方針（令和2年度）

1 主な現状と課題

令和元年10月、令和元年東日本台風（台風第19号）の影響により、西日本から東日本の太平洋側を中心に激しい雨が降り、本市においても大雨特別警報が発表され、豪雨、暴風、浸水等により多方面にわたる被害が発生しました。消防局では、台風の接近前から風水害の配備態勢を発令し、延べ1,122名の警戒人員により、53件の災害に対応したところです。

このような大規模化する自然災害への対応のほか、超高齢社会の到来等による社会環境の変化により、救急出場件数は増加傾向にあり、住宅火災発生時における高齢者被害についても、今後更なる増加が懸念されています。

また、近年は建物の高層化や複合化が進んでいることから、災害時における避難や消防活動上の課題が懸念されており、予防行政の重要性がこれまで以上に高まっています。

そして、令和3年7月には市内の大規模施設が競技会場となり、東京2020大会が開催される見込みであることから、市民及び来訪者の安全・安心を確保するため、的確な警戒体制の整備と本市消防力の更なる強化を図る必要があります。

（1）複雑多様化する災害への対応

令和3年7月、本市では「さいたまスーパーアリーナ」と「埼玉スタジアム2002」の2会場が会場となり、東京2020大会が開催される見込みであることから、大会開催期間中は、会場周辺のみならず、市内には訪日外国人を含む多数の来訪者が見込まれています。

消防局では、市民及び来訪者等の安全・安心を確保するため、現在の消防サービスを低下させることなく、予測される災害の発生防止及び災害発生時における被害の軽減を図る万全な消防特別警戒の体制を構築する必要があります。

また、令和元年には京都市での爆発火災や世界遺産である首里城で火災などが発生し、市民の安全・安心を脅かす災害は複雑多様化しています。

消防局では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止も含め、あらゆる災害に的確に対応できるよう、消防職員の知識や技術を高めるなど、より一層、消防活動能力の向上を図る必要があります。

（2）発生が危惧される大規模災害への対応

令和元年10月、台風第19号の影響により本市においても大雨特別警報が発表され、豪雨、暴風、浸水等により多方面にわたる被害が発生しました。

また、平成30年6月18日に発生した大阪府北部を震源とする地震では、都市部を震度6弱の揺れが襲い、7件の火災と多数の死傷者が生じました。

気象庁によると、震度5弱以上を観測した地震は、平成29年に8回、平成30年に11回と全国各地で地震による甚大な被害が発生しています。

本市においても、地域防災計画でさいたま市直下地震を最大震度6強と想定していることから、的確な消防力の運用により火災の延焼拡大を阻止し、人命救助を最優先とした警戒体制の強化を図る必要があります。

また、大規模災害への対応が急務となっている中、本市においても大きな自然災害が起こり得ることを強く意識するとともに、地域防災体制の中核的な役割を果たす消防団の充実強化や、将来の地域における防火防災の担い手となる少年消防団の育成を図る必要があります。

（3）火災による被害増加への対応

超高齢社会の到来により、住宅火災における高齢者の逃げ遅れ被害の増加が懸念されることから、被害の軽減につなげる火災予防対策を推進する必要があります。

その中でも、住宅用火災警報器は、設置義務化から10年以上が経過しており、電池切れや本体の劣化により火災を感じなくなるおそれがあるため、機器の交換等を市民に周知していく必要があります。

また、市民の防火防災意識の高揚を図るためには、防火訪問による市民への直接的な防火対策指導や、さいたま市防災展示ホールを活用した防火防災学習等の機会を提供していく必要があります。

さらに、東京2020大会における競技の本市開催に伴い、多数の来訪者が見込まれることから、大会関連施設等の防火管理体制や消防用設備等が関係法令に適合するよう、事業所等に指導を行い、火災等の発生防止及び被害の軽減を図る必要があります。

(4) 救急需要増大への対応と応急手当の普及啓発

令和元年中の救急出場件数は、前年に比べ減少となりましたが、7万件に迫る件数となっています。年齢区分別搬送状況を見ると、平成22年から10年連続で高齢者層（65歳以上）が成人層（18歳～64歳）を上回っている状況であり、今後、高齢者の更なる増加により救急出場件数の増加が見込まれることから、救急需要対策に取り組む必要があります。

また、救急現場に居合わせた人によって行われる応急手当は、救命効果を高めるために重要であり、更なる応急手当の普及啓発が必要となります。

2 基本方針・区分別主要事業

131万市民の生命、身体及び財産を大規模・多様化する各種災害から保護するため、消防力を計画的に整備し、消防職員等への教育や訓練の充実により、消防活動能力の向上を図ります。

また、市民・事業者の防火防災意識の高揚を図り、火災の予防や災害による被害の軽減を図ります。

さらに、救急需要対策に取り組むとともに、救命効果を高めるために、市民の応急手当の知識と技術の習得を促進します。

(1) 複雑多様化する各種災害に適切に対応するため、消防力を計画的に整備します。

* () 内は一般財源 (単位：千円)

No.	事業名	令和2年度	令和元年度	説明
1	消防力等整備事業 〔消防総務課、消防企画課、消防施設課、警防課、救急課、指令課〕	1,660,025 (486,825)	1,373,567 (413,563)	大規模化、複雑多様化する災害に適切に対応するため、さいたま市消防力整備計画に基づき、中央消防署の移転に係る建設工事及び岩槻消防署の解体設計業務を実施
2	職員研修事業 〔消防職員課〕	44,135 (44,135)	51,142 (51,142)	職員の職務遂行上必要な知識及び技術の向上につながる人材育成の実施
3	警防業務推進事業 〔警防課〕	101,599 (60,101)	54,155 (54,155)	消防部隊の教育訓練の実施及び資機材の整備
4	車両整備事業 〔警防課〕	701,407 (32,230)	940,657 (23,257)	消防車両の更新整備
5	東京2020大会消防特別警戒実施事業 〔消防企画課、消防職員課、警防課、救急課、指令課〕	13,142 (13,142)	17,664 (11,964)	市民及び来訪者等の安全・安心を確保するため、大会開催期間中の市内2競技会場を含む、市全域における消防特別警戒を実施

(2) 震災をはじめとした、受援を必要とする大規模災害時における警防体制を強化するとともに、地域防災力の中核である消防団の充実強化を図ります。

* () 内は一般財源 (単位：千円)

No.	事業名	令和2年度	令和元年度	説明
6	警防体制強化事業 〔警防課、指令課〕	8,639 (8,639)	3,988 (3,988)	大規模災害による市民の被害を最小限にするため、警防本部室における情報集約システムの運用及び検証を実施
7	元消防職員による消防協力体制整備 〔消防総務課〕	234 (234)	254 (254)	ボランティア保険の加入及び安全装備品等の整備
8	消防団充実強化事業 〔消防団活躍推進室、消防施設課、警防課〕	399,274 (165,274)	251,227 (157,427)	地域防災の中核的存在である消防団の充実強化を図るため、消防団員確保の広報や消防分団車庫及び各種装備等の整備を実施

(3) 火災を予防し、火災による被害を軽減するため、火災予防対策の推進を図ります。

* () 内は一般財源 (単位：千円)

No.	事業名	令和2年度	令和元年度	説明
9	火災予防対策推進事業 〔予防課、査察指導課〕	4,717 (2,277)	4,969 (2,510)	防火訪問の実施並びに過去の火災や防火管理体制の状況等を踏まえ計画的な査察及び関係部局と連携した指導を実施
10	VR災害疑似体験装置導入事業 〔予防課〕	1,149 (1,149)	0 (0)	市民に対して、実災害に即したリアリティのある防火防災学習を提供するため、令和元年度の試験導入を経て、VR災害疑似体験装置を導入

(4) 救急需要対策と応急手当の普及啓発を行います。

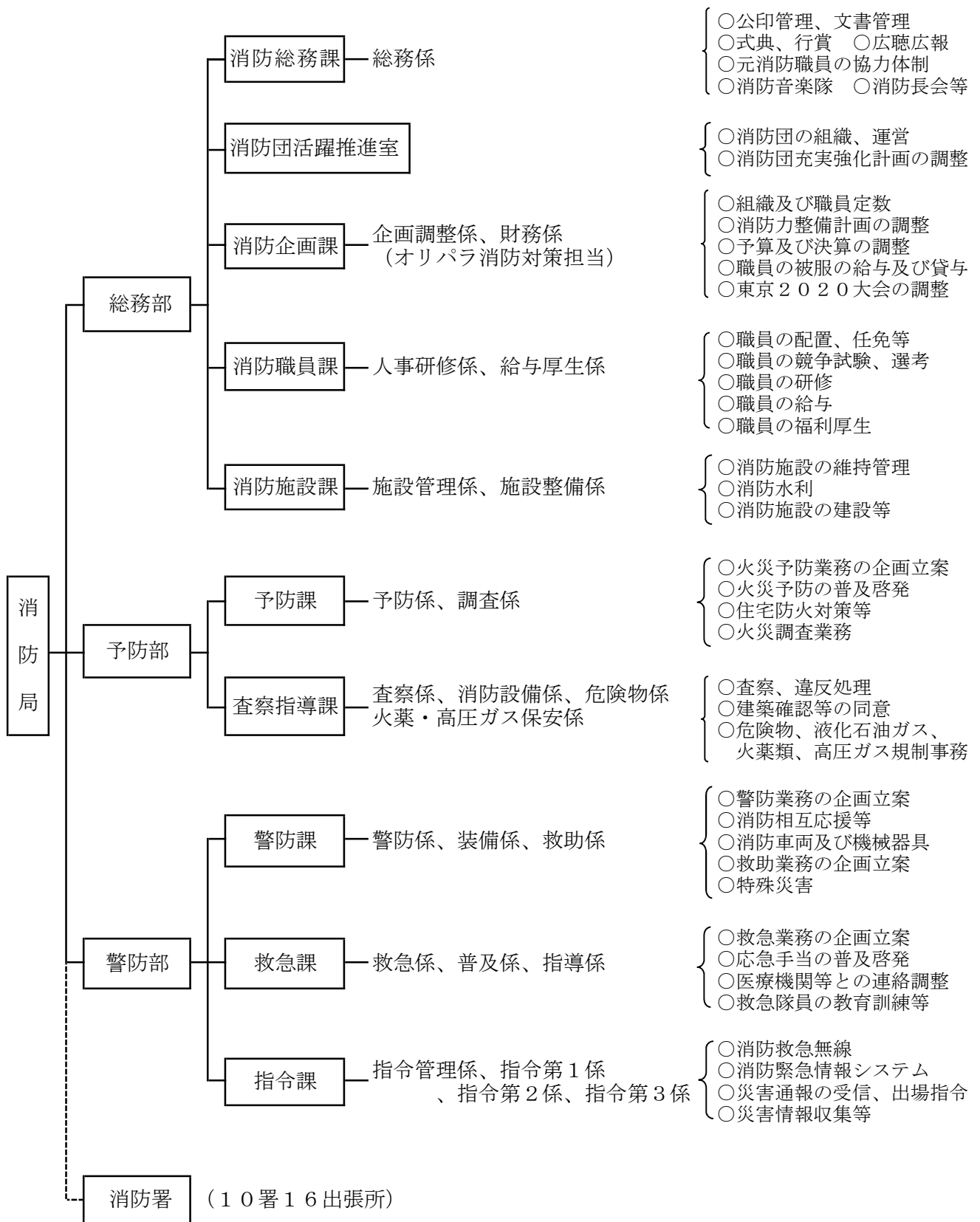
* () 内は一般財源 (単位：千円)

No.	事業名	令和2年度	令和元年度	説明
11	救急需要対策事業 〔救急課〕	1,407 (1,407)	1,471 (1,471)	増加する救急要請に対応するため、「119救急ガイド」の配布など、緊急度判定体系の確立に向けた取組
12	応急手当普及啓発事業 〔警防課、救急課〕	5,860 (5,810)	4,980 (4,930)	市民の応急手当講習の受講促進及び応急手当の市民指導者の養成

消防の組織

消防機構図及び主な事務分掌

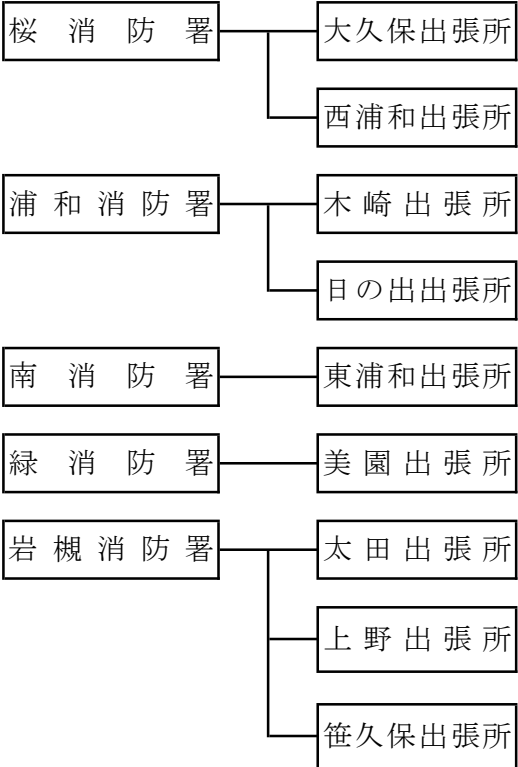
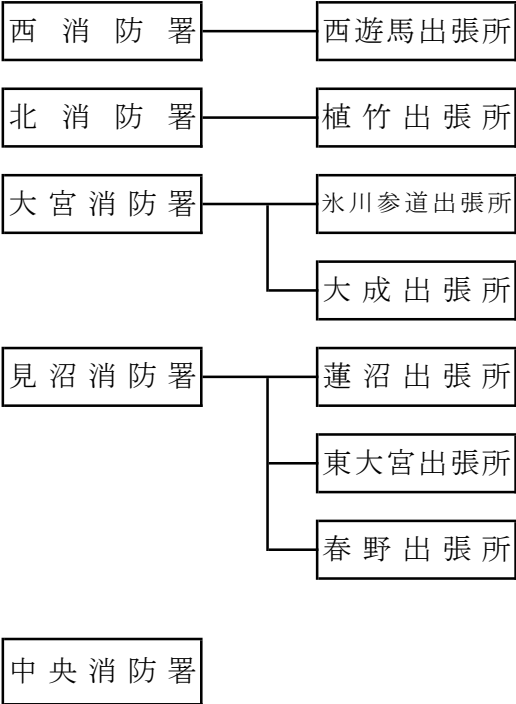
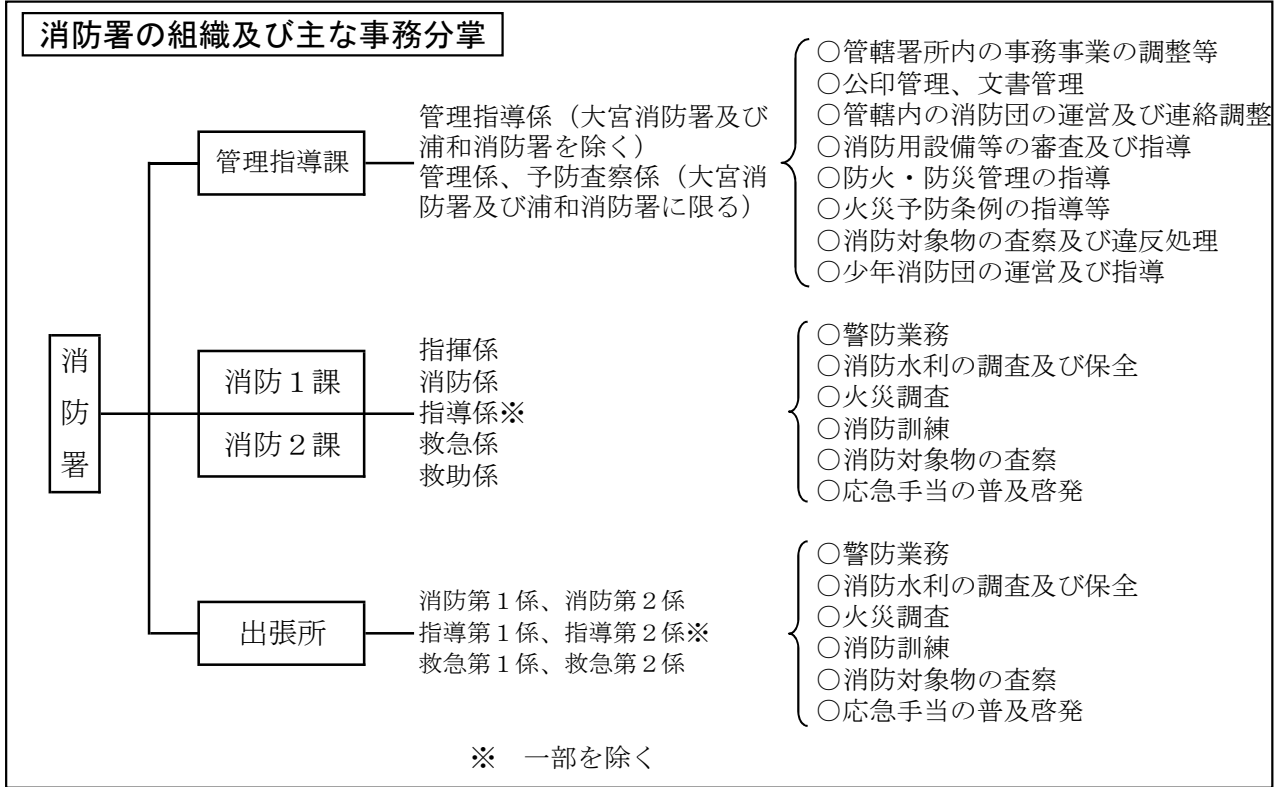
(令和2年4月1日現在)



※「消防署機構」のとおり

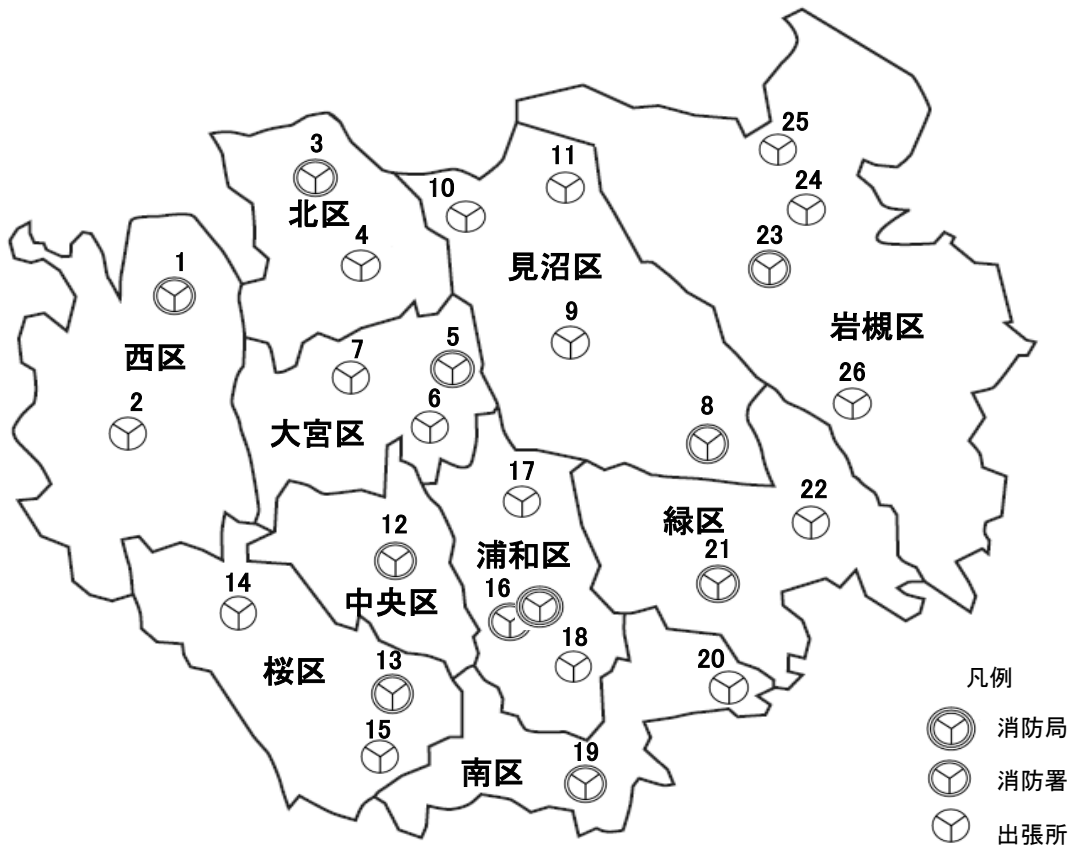
消防署機構

(令和2年4月1日現在)



消防署所の配置

(令和2年4月1日現在)



名称	所在地	電話番号
1 西消防署	〒331-0078 西区西大宮3-48	048-623-1199
2 西遊馬出張所	〒331-0061 西区大字西遊馬307-1	048-622-1889
3 北消防署	〒331-0812 北区宮原町4-66-14	048-654-3456
4 植竹出張所	〒331-0813 北区植竹町1-820-1	048-663-4262
5 大宮消防署	〒330-0834 大宮区天沼町1-893	048-648-6505
6 氷川参道出張所	〒330-0843 大宮区吉敷町1-136-1	048-641-9534
7 大成出張所	〒330-0852 大宮区大成町1-226	048-665-4231
8 見沼消防署	〒337-0024 見沼区大字片柳1087-1	048-681-0119
9 蓮沼出張所	〒337-0015 見沼区大字蓮沼267	048-686-1252
10 東大宮出張所	〒337-0051 見沼区東大宮4-31-1	048-651-9110
11 春野出張所	〒337-0002 見沼区春野2-6-1	048-687-0151
12 中央消防署	〒338-0002 中央区下落合5-7-18	048-852-9119
13 桜消防署	〒338-0837 桜区田島4-23-7	048-836-0119
14 大久保出張所	〒338-0815 桜区大字五関762-2	048-857-0119
15 西浦和出張所	〒338-0837 桜区田島7-17-10	048-837-0119
16 消防局・浦和消防署	〒330-0061 浦和区常盤6-1-28	048-833-1319
17 木崎出張所	〒330-0072 浦和区領家4-21-20	048-832-0119
18 日の出出張所	〒330-0054 浦和区東岸町8-10	048-882-1119
19 南消防署	〒336-0024 南区根岸3-10-7	048-861-0119
20 東浦和出張所	〒336-0042 南区大字大谷口5668	048-813-5119
21 緑消防署	〒336-0923 緑区大字大間木472	048-873-0119
22 美園出張所	〒336-0961 緑区大字玄蕃新田597-1	048-878-7119
23 岩槻消防署	〒339-0043 岩槻区城南1-2-3	048-797-0119
24 太田出張所	〒339-0052 岩槻区太田1-2-11	048-757-2727
25 上野出張所	〒339-0073 岩槻区上野4-6-21	048-794-4816
26 笹久保出張所	〒339-0034 岩槻区大字笹久保1328	048-798-3802

消防局主要記録

令和元年度中における主な記録

日 付	内 容
4月21日	新見沼消防署完成に伴う落成式 [見沼消防署]
5月23日	第46回埼玉県消防救助技術指導会第1ブロック予選会 [大宮消防署]
6月8日	第46回埼玉県消防救助技術指導会 (陸上の部) [大宮消防署]
6月21日	第46回埼玉県消防救助技術指導会 (水上の部) [大宮公園水泳場]
7月5日	第48回消防救助技術関東地区指導会 (陸上の部) [長野県消防学校]
7月18日	第48回消防救助技術関東地区指導会 (水上の部) [高崎市浜川プール] 陸上の部、水上の部併せて31名の消防・救助隊員が出場し、優秀な成績を収め、救助技術の向上に努めました。
8月25日	第48回全国消防救助技術大会 [岡山県] 陸上の部、水上の部併せて7名の消防・救助隊員が出場し、優秀な成績を収め、救助技術の向上に努めました。
10月12日	令和元年東日本台風による対応
~10月15日	風水害配備態勢を発令し、警防本部を設置しました。
11月10日	皇太子殿下の御即位に伴う「祝賀御列の儀」 [都道府県会館前 (東京都千代田区)] さいたま市消防音楽隊が千葉市消防音楽隊と合同で奏楽を行いました。
12月3日	令和元年度NBC災害総合連携訓練 第32回オリンピック競技大会及び東京2020パラリンピック競技大会を見据え、災害発生時の対応能力向上と関係機関との連携強化を図りました。
1月29日	令和元年度消防部隊活動訓練
~1月30日	火災現場における指揮命令系統を確立し、活動中における安全管理を実践するとともに、消防活動能力の向上を図りました。
2月29日	希望 (ゆめ) のまちコンサート「第18回さいたま市消防音楽隊定期演奏会」 [さいたま市文化センター 大ホール] 《新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止》